

コロナ渦の今 教会を考える

使命に沿った
あるべき教会の
姿とは？



【今日のアウトライン】

I. 教会の今

withコロナで問われること

II. 聖書的教会とは？

III. 制度的教会の歴史

IV. 使命から考える教会のありよう



I. 教会の今 withコロナで問われること



【参議院予算委員会 資料から】

2020年7月16日

児玉龍彦医師

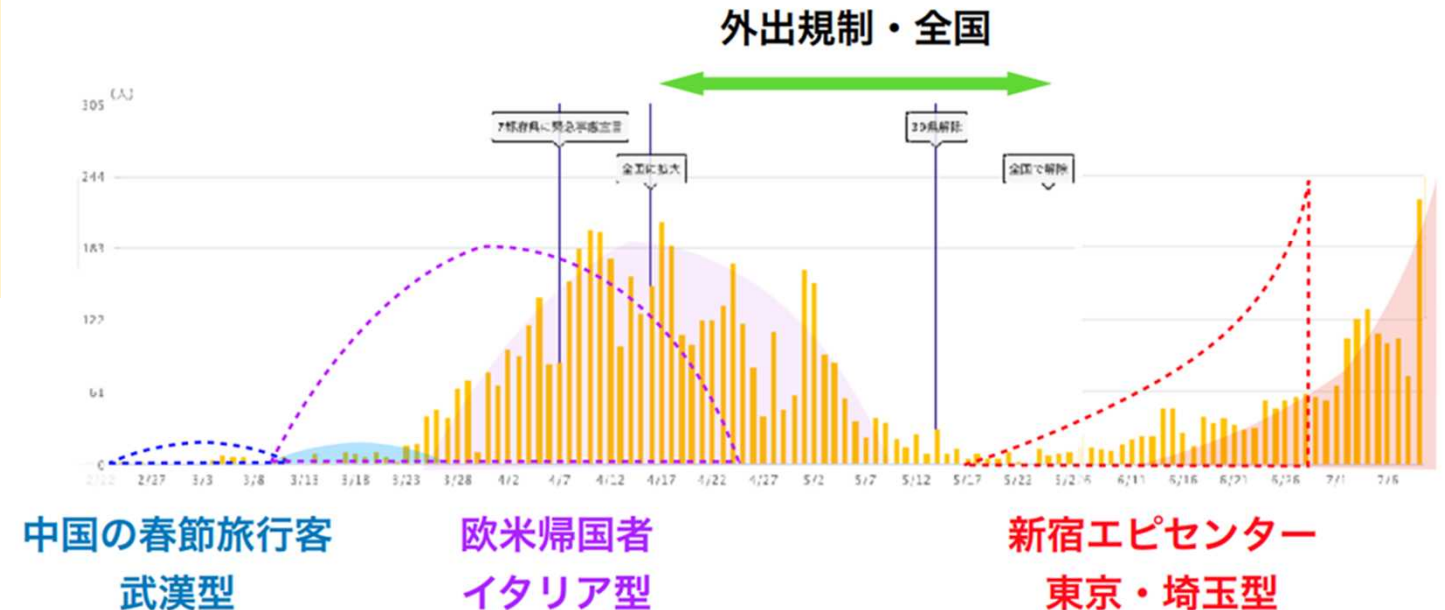
(東京大学
先端科学技術
研究センター)

(1) 輸入感染から東京エピセンター（震源地）に

- ・ 感染してから、PCRの陽性まで、2週間のタイムラグがある。
- ・ 3月に東京で始まった感染（青）は、中国の春節の旅行者由来である。
- ・ 4月のピーク（紫）は3月の欧米からの帰国者がもたらした。

輸入感染は、自然に減り始めていたが無症状者で残存した。

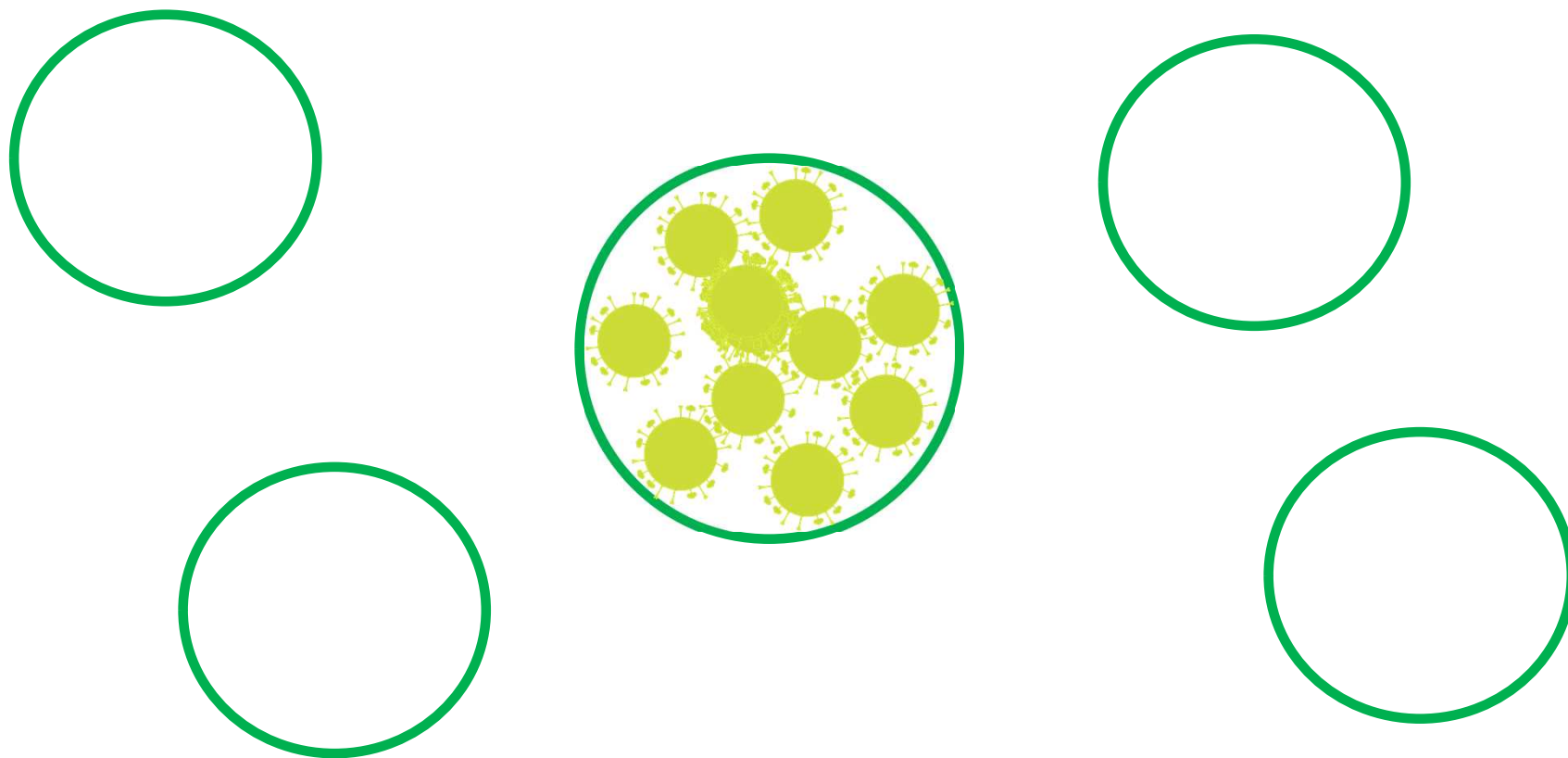
- ・ 6月からの広がり、無症状者が持続的に増え、特に免疫の出来にくいスプレッダーの増えた可能性。日本国内にエピセンターが形成されてしまった。 **悪循環サイクル**



【エピセンターとは？】

■ エピセンターとは、“震央(震源地の地表のスポット)。”

ある地域で、無症状の感染者が増え続け、エピセンター化すると、そこから、持続的に、周囲の地域に、ウイルスがまき散らされていく。



【コロナ渦の日本と世界の現状】

■ エピセンターが東京・新宿に!!

➡国内から国内に拡大していく段階に突入。
これまでと比較にならない規模の感染に!!

■ 世界的に見るといまだ、第一波が拡大中!!

アメリカ、ブラジル、インド....。

■ 押さえた地域でも感染が再拡大!!

スペイン、イギリス....。



【コロナ渦のこれから・想定される最悪とは？】

“最善を尽くすために、最悪を想定する”

■収束に至らない!!

➡集団免疫にいたらず、有効なワクチンもできない。

■この状況が、ずっと続いていく!!

➡ウイルスが変異を繰り返し、流行が繰り返されていく。

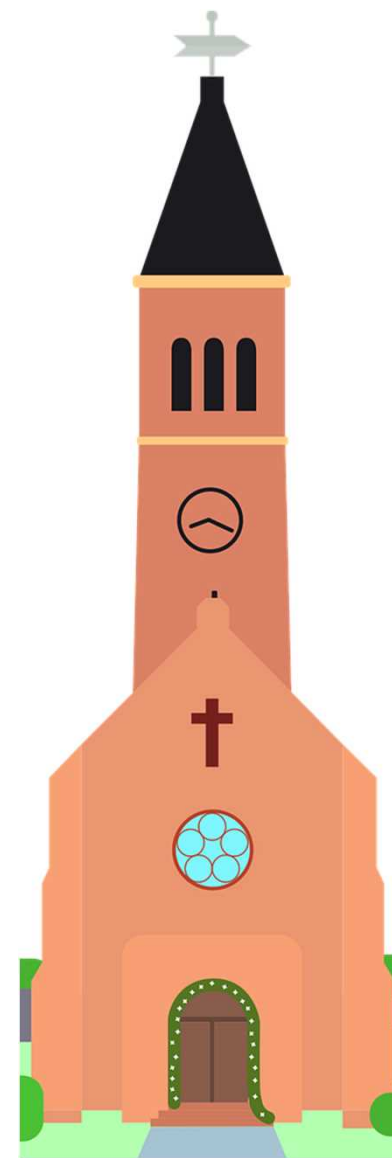
■生活も経済も、従来の形では、どうにもなりたたない!!

➡生活スタイル自体を、コロナに合わせていくしかない!!



【withコロナの教会の最悪を想定する】

- 超高齢化した教会は、コロナの影響が絶大。
 - ➡ 牧師や役員の高齢、死亡。担い手の急激な減少。
- 小人数の分散礼拝、ライブ配信が固定化。
 - ➡ 献金、礼拝出席の減少。
 - ➡ 従来の伝道が不可能に。➡ 教勢の低下が加速。
- 教会堂、教会組織の維持が困難に。
 - ➡ 無牧師の教会の増加。
 - 兼牧。教会の合併等が、都市部でも増加。
 - ➡ 教会堂の閉堂、宗教法人の解散も増加。
- 教派、教団単位でも、組織の維持が困難に。
 - ➡ 互助制度や年金制度の崩壊。神学校の閉鎖。



【withコロナの教会の最悪を想定する】

■ 超高齢化した教会は、コロナの影響が絶大。

➡ 牧師や役員の高齢、死亡。担い手の急激な減少。

■ 小人数の分散礼拝、ライブ配信が固定化。

➡ 献金、礼拝出席の減少。

➡ 従来の伝道が不可能に。➡ 教勢の低下が加速。

■ 教会堂、教会組織の維持が困難に。

➡ 無牧師の教会の増加。

兼牧。教会の合併等が、都市部でも増加。

➡ 教会堂の閉堂、宗教法人の解散も増加。

■ 教派、教団単位でも、組織の維持が困難に。

➡ 互助制度や年金制度の崩壊。神学校の閉鎖。



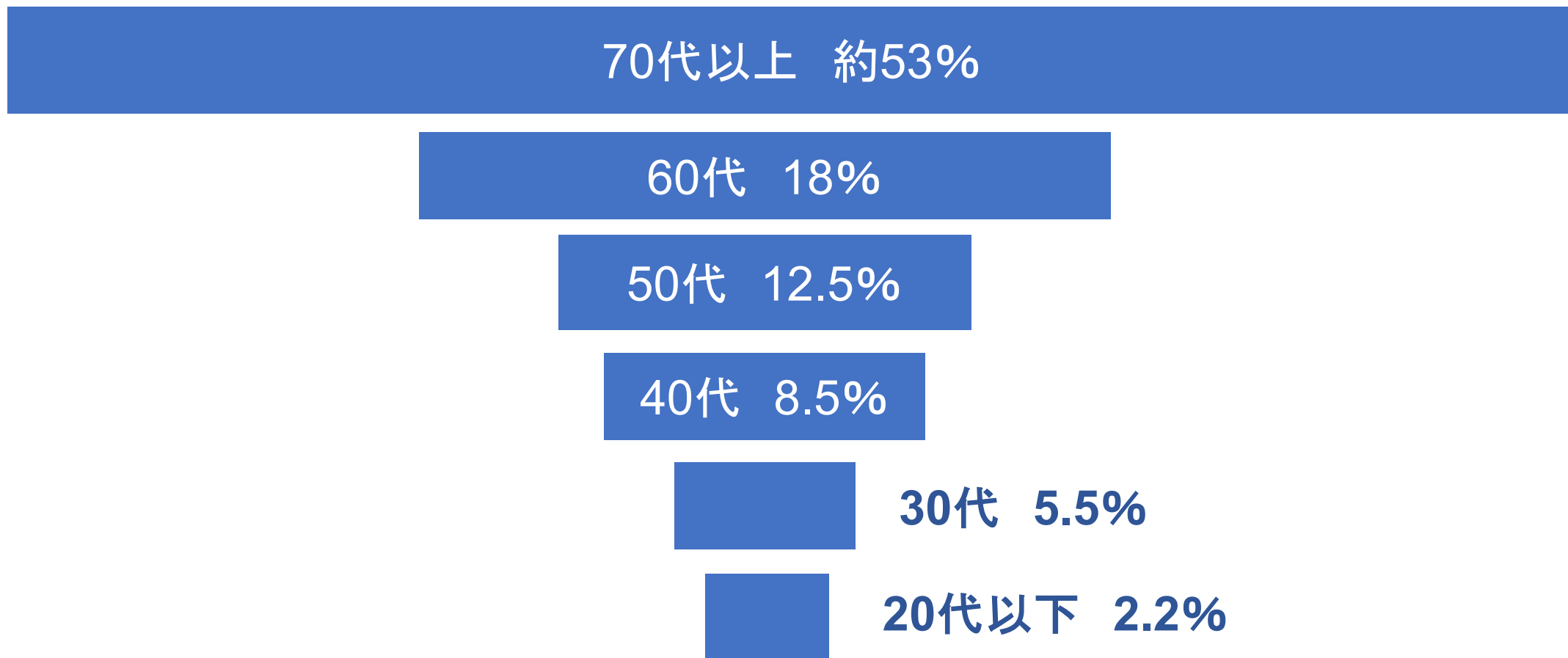
コロナによって
教会の危機が加速!!

【日本基督教団 信徒の世代別構成 2014年データより】

グラフ タイトル



【日本基督教団 2020年の状況(推定)】



【日本基督教団 これからは？】

70代以上

60代

50代

40代

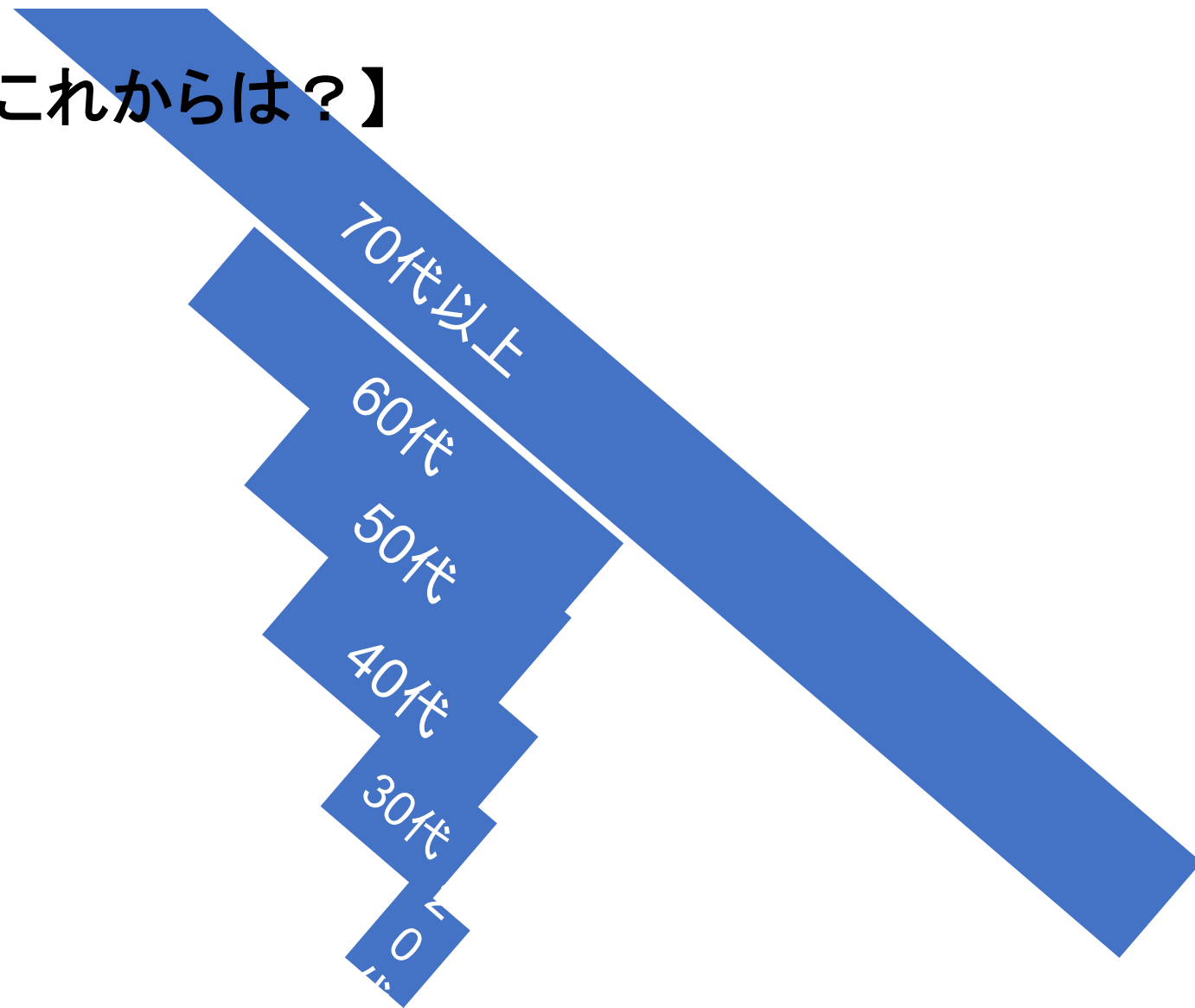
30代

20代

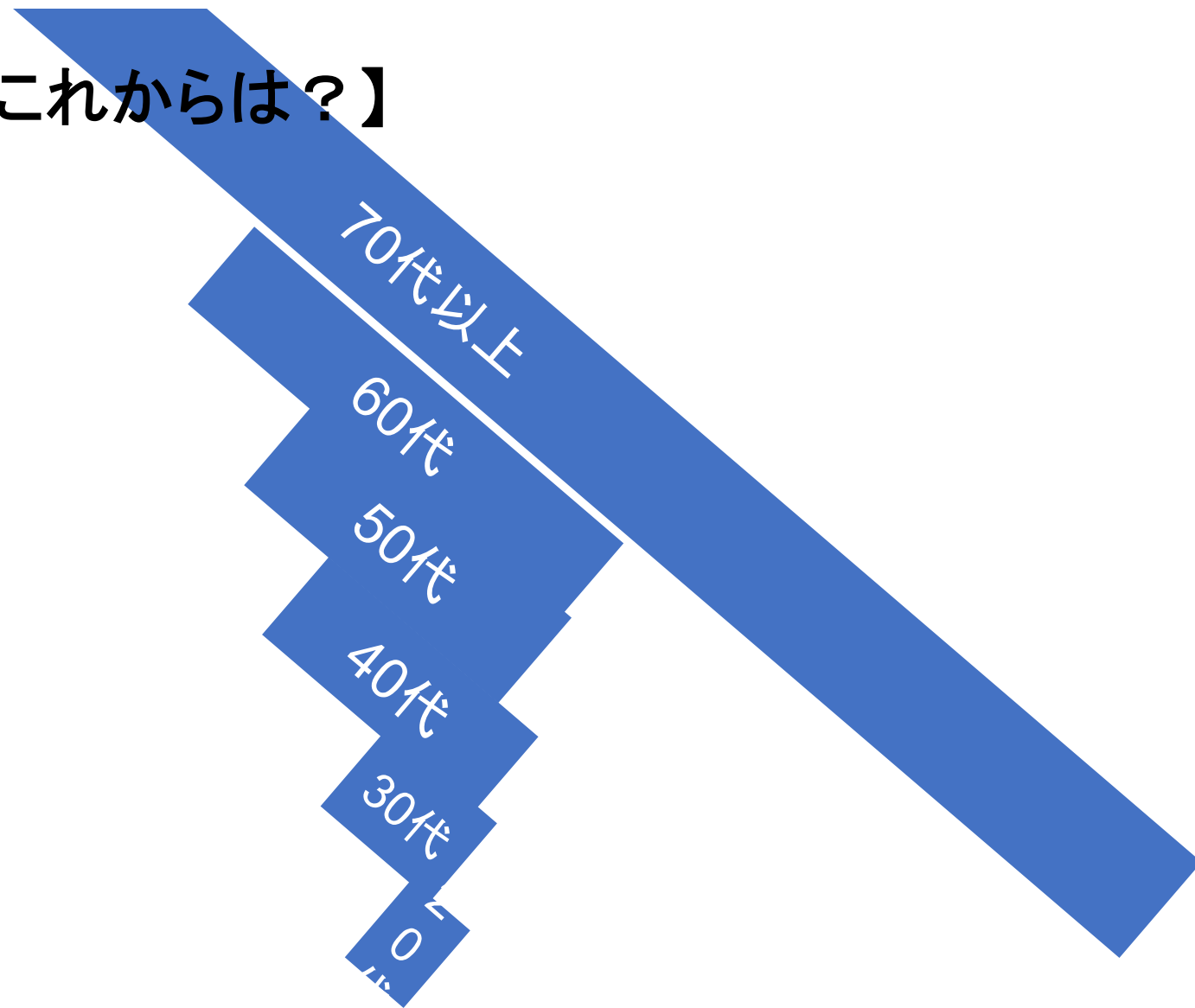
10代

0代

【日本基督教団 これからは？】



【日本基督教団 これからは？】



【今できる現実的な対策は？】

■ 伝道へ注力!!

- ➡だが、教会堂へ人々を集める伝道集会は困難。
- ➡ネットでの伝道は、広大な種まき。時間も労力も。地域教会に都合のいい刈り取りなど無理!!

■ 身の丈にあわない不動産の処分

- ➡必要最小限のコンパクトな会堂・集会所に移行。

■ 組織のスリム化

- ➡委員会活動などの廃止、縮小。必要最低限に。

■ 牧師に頼らない、牧会の体制作り

- ➡集えないところで、広範なケアを担い合う体制を



制度的組織的教会は
かつてない危機に!!

Ⅱ. 聖書の教会とは



【聖霊降臨】 使徒2:1~4

五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。

すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した。

- 主イエスの復活から50日後。昇天の10日後。エルサレムで、弟子たちに聖霊が降った。



聖霊降臨により、
教会が誕生

【教会の始まり】

① いつ？

...イエス復活から50日後の五旬祭。
(ペンテコステ)

② どこで？

...家(エルサレム神殿)の一角で。

③ だれが？

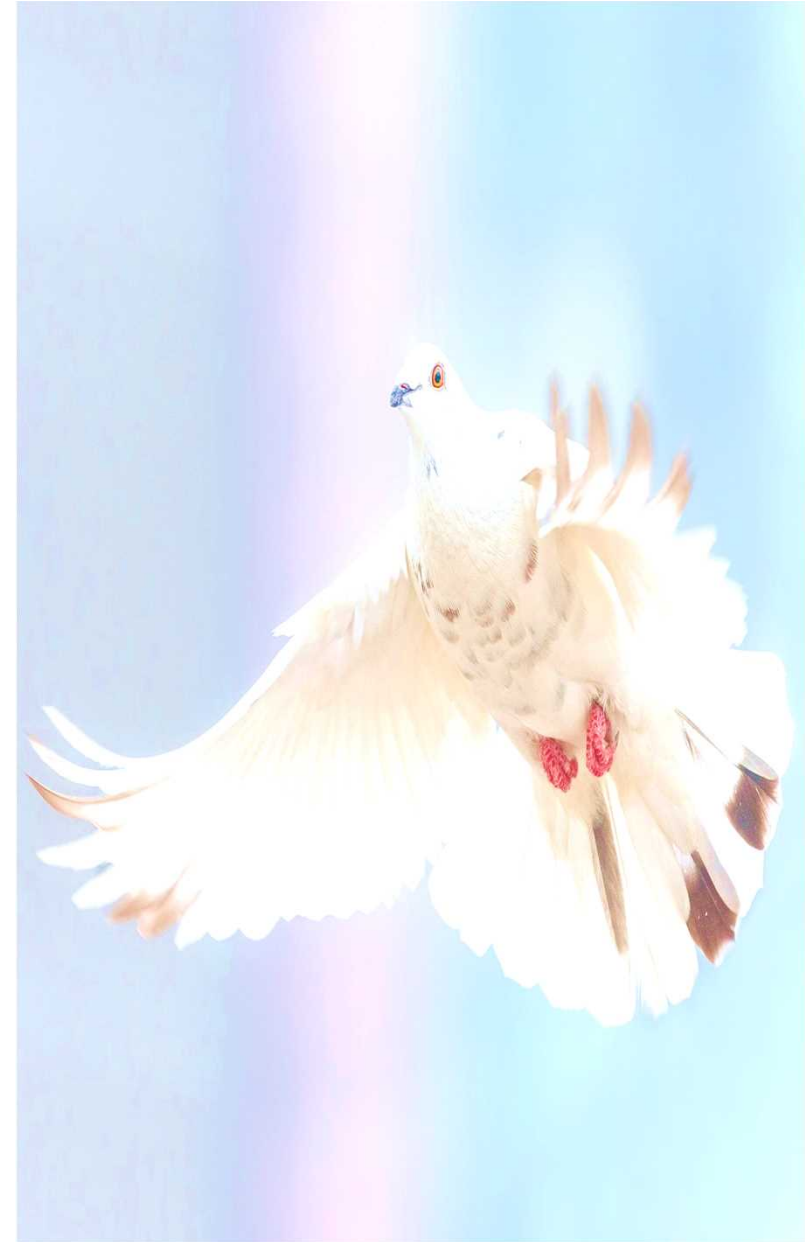
...120人の弟子たちに。

④ どのようにして？

...聖霊が降ることで。

⑤ 何が起きた？

...教会が誕生した。



【教会の誕生】

最初の弟子たちは全員“ユダヤ人”

エルサレム教会も、“ユダヤ人の教会”だった。





【福音の広がり】

迫害により散らされたユダヤ人信者により、
異邦人世界の“**離散のユダヤ人**”に、
さらに、“**異邦人**”にも福音が伝えられた。

【教会は異邦人とユダヤ人による】 エペソ2:13~16

しかし、かつては遠く離れていたあなたがた(異邦人)も、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。

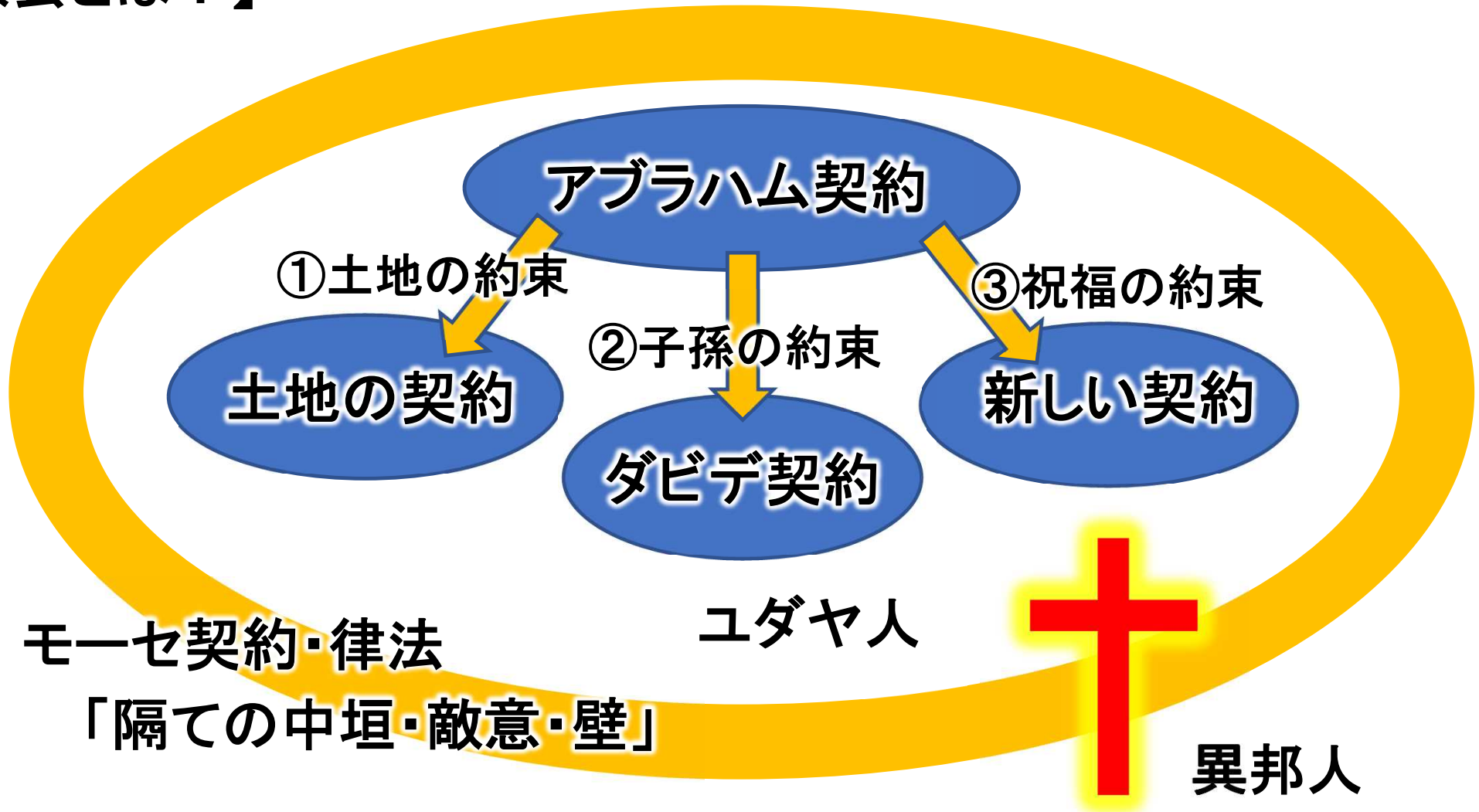
実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において**新しい一人**の人に造り上げて平和を実現し、二つのものを**一つのからだ**として、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。



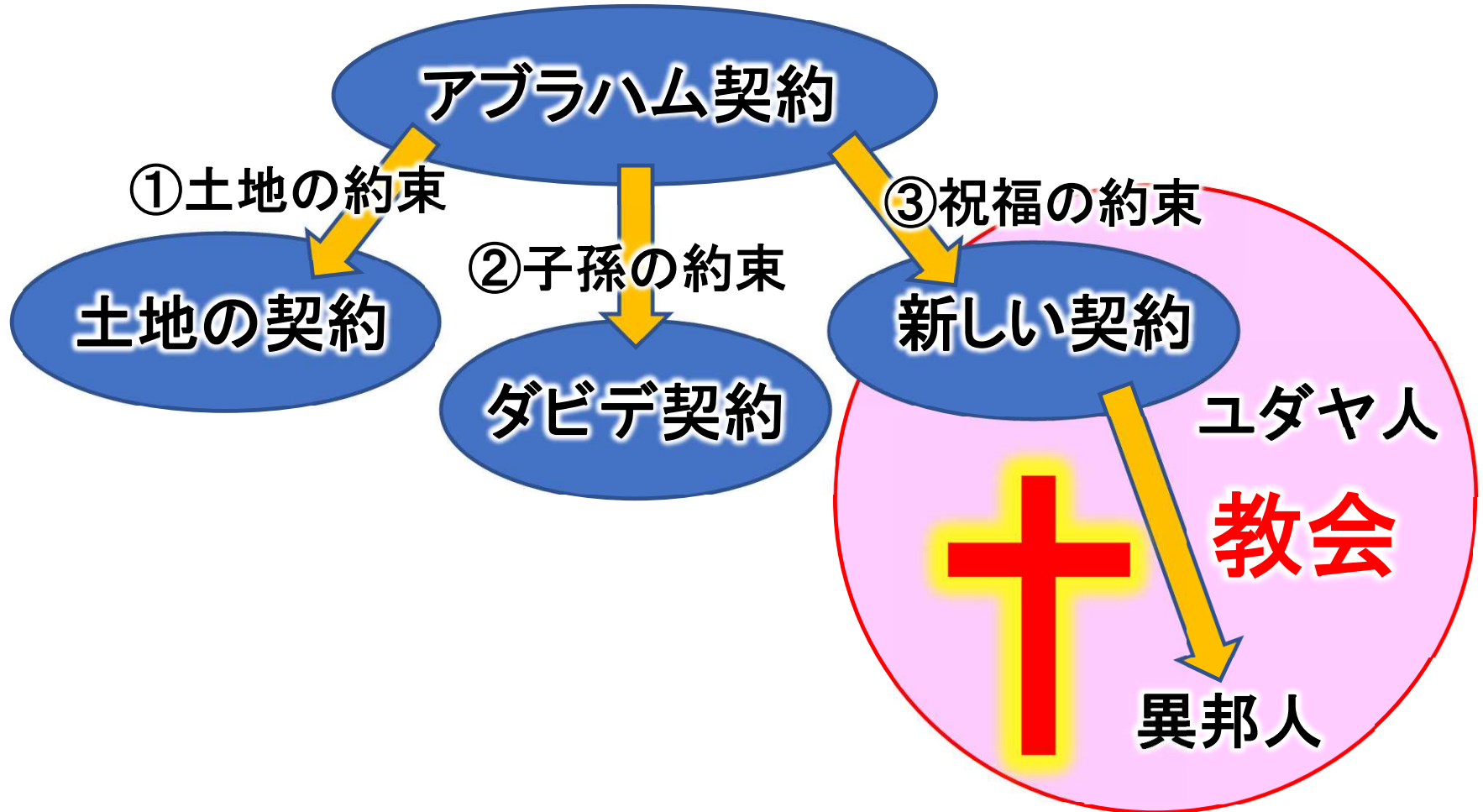
壁・敵意＝律法

キリストの体＝教会

【教会とは？】



【教会とは？】



【聖霊のバプテスマ】 I コリ 12:13

「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」

- “聖霊のバプテスマ”を受けて、
“キリストの体である教会”の一員となる。
➡ 信じて救われた瞬間、
すべての信者に起こっていること!!



【教会とは？】

■教会 ...エクレシア

→「この世から呼び出された会衆」

■教会が指す、二つの意味。

①普遍的教会 ...すべての時代、場所の
真実の信者全員。

目には見えない教会。

②地域教会 ...特定の地域にある教会
目に見える教会。

偽の信者も混在している。

※教派・教団も、単立教会も、家の教会も、“**地域教会**”



【奥義としての教会】 コロ1:24～26

今、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。私は、**キリストのからだ**、すなわち**教会**のために、自分の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。

私は神から委ねられた務めにしたがって、**教会**に仕える者となりました。あなたがたに**神のことば**を、すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた**奥義**を、余すところなく伝えるためです。

この**奥義**が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この**奥義**とはあなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

キリストの体なる教会は

隠されていた奥義



【メシア拒否以前に考えられていた神の国】

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国

メシア到来と共に!!

【地上における神の国】

【奥義としての王国】 ...メシア拒否以降

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

④奥義としての王国

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

聖霊
降臨

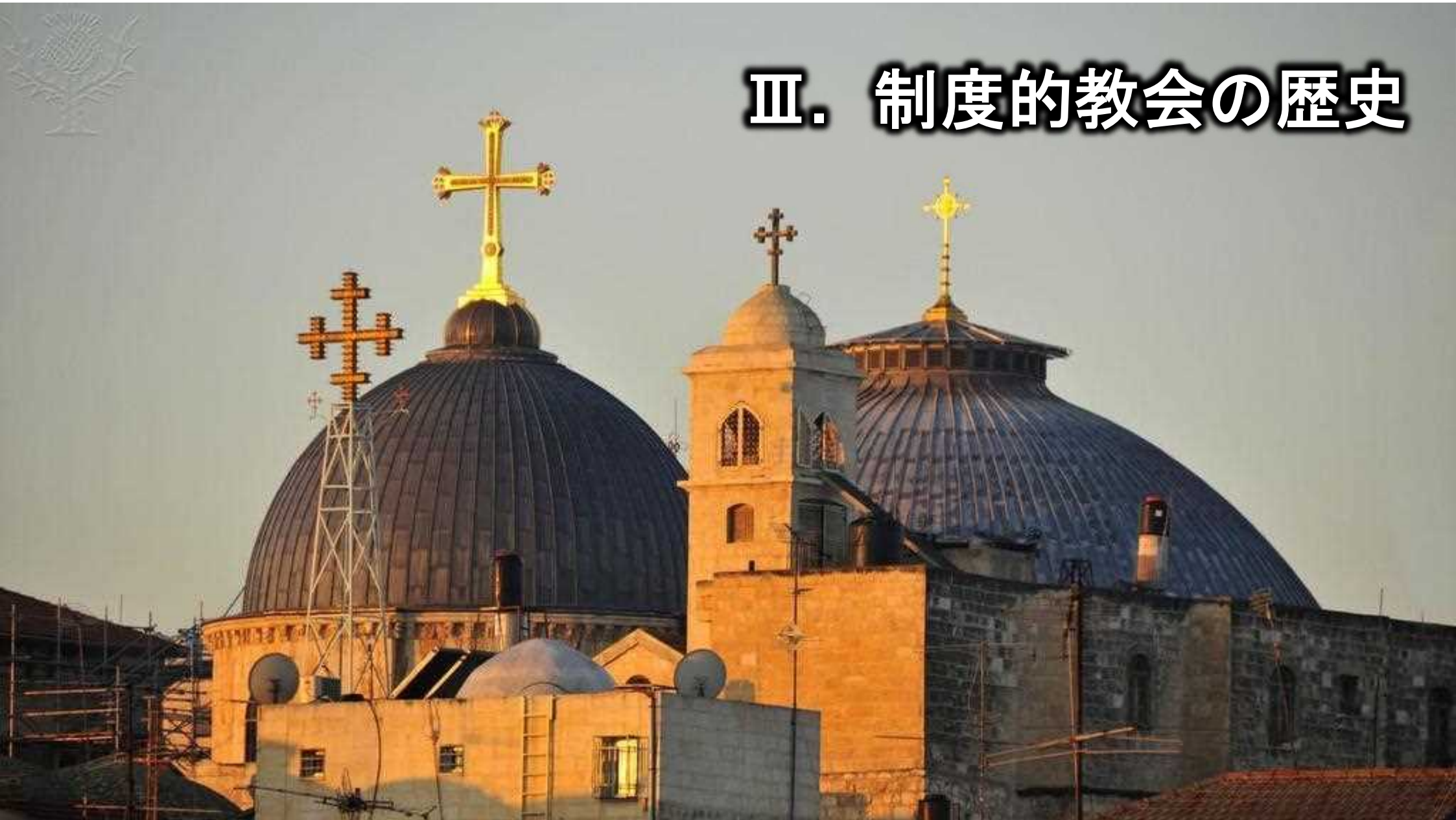
≡教会時代

携挙

普遍的教会とは、聖霊降臨から、携挙まで、福音を信じた人すべて

【地上における神の国】

Ⅲ. 制度的教会の歴史



【現代日本におけるキリスト教会・宗教法人法】

■ 教会規則、総会、名簿・財産目録の書類提出…。

➡ **宗教法人法**が、宗教法人に求めているもの。

【宗教団体法から宗教法人法へ】

■ 1940年4月 宗教団体法が施行。

➡ 文部大臣に認可や取り消しの強力な権限が!!

■ 1941年6月 日本基督教団発足

➡ 1941年8月には、太平洋戦争に突入!!

■ 1951年4月 宗教法人法が施行

■ 1996年法改正 ➡ 役員名簿、財産目録などの提出義務が!!

➡ 背景に、オウム真理教によるテロ事件。



【初代教会の時代】

- エルサレムで、イエスの120人の弟子に聖霊降臨。
その日に5千人が加わる。 ➡最初の教会

「使徒2:46～47 そして、毎日心を一つにして宮に集まり、*
家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をもにし、
神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、
救われる人々を加えて一つにしてくださいました。」

- * 弟子たちは、神殿で、イエスの教えと聖書を学んでいた。
- 主イエスも、神殿で人々に教えていた。
マタ 26:55「わたしは毎日、宮で座って教えていた」
➡聖書の解き明かしが、そのまま伝道になっていた。



【初代教会の組織化】

「使徒4:34 彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった。地所や家を所有している者はみな、それを売り、その代金を持って来て、4:35 使徒たちの足もとに置いた。その金が、必要に応じてそれぞれに分け与えられたのであった。」

■信者はユダヤ共同体から排斥され、経済活動も困難。

➡エルサレム教会の困窮は進み、後に援助が必要に!!

■ヘブル語を話すユダヤ人(生粋のユダヤ人)とギリシャ語を話すユダヤ人(離散・ディアスポラ)の間で、やもめへの食事の配給を巡るトラブルが。

➡ステファノたち7人の奉仕者を選出した。

「使 6:4 私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。」



【使徒たちの働きは、キリストについて教えること】

■エルサレム教会の働き

「使 5:42 そして毎日、宮や家々でイエスがキリストであると教え、宣べ伝えることをやめなかった。」

■アンティオキア教会の働き

「使 11:26 彼らは、まる一年の間教会に集い、大勢の人たちを教えた。弟子たちは、アンティオキアで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。」

➡キリストを学び、教える者が、“キリスト者”

■ローマにおけるパウロの宣教

「使 28:31 少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。」





■エルサレム教会は70年に消失。
■中心となる教会は移り変わり、
多くの地域教会も消えていった。

エルサレム

地域教会は、起こり、廃れ、移り変わっていく!!

The map shows the Eastern Mediterranean region, including parts of Italy, the Levant, and the Eastern Mediterranean coast. Key locations marked include Italy (イタリア), Rome (ローマ), Legion (レギオン), Antioch (アンティオキア), Jerusalem (エルサレム), and various islands and coastal cities like Crete (クレタ), Salomon (サルモネ), Cyprus (キプロス), and others. A red banner is overlaid on the map, and a legend box is in the bottom left.

普遍的教会は、広がり、つながり、着実に成長していく!!

- エルサレム教会は70年に消失。
- 中心となる教会は移り変わり、多くの地域教会も消えていった。

アンティオキア

エルサレム

【制度的教会の出現】

■ 4世紀以降、ローマによりキリスト教が公認、国教化。

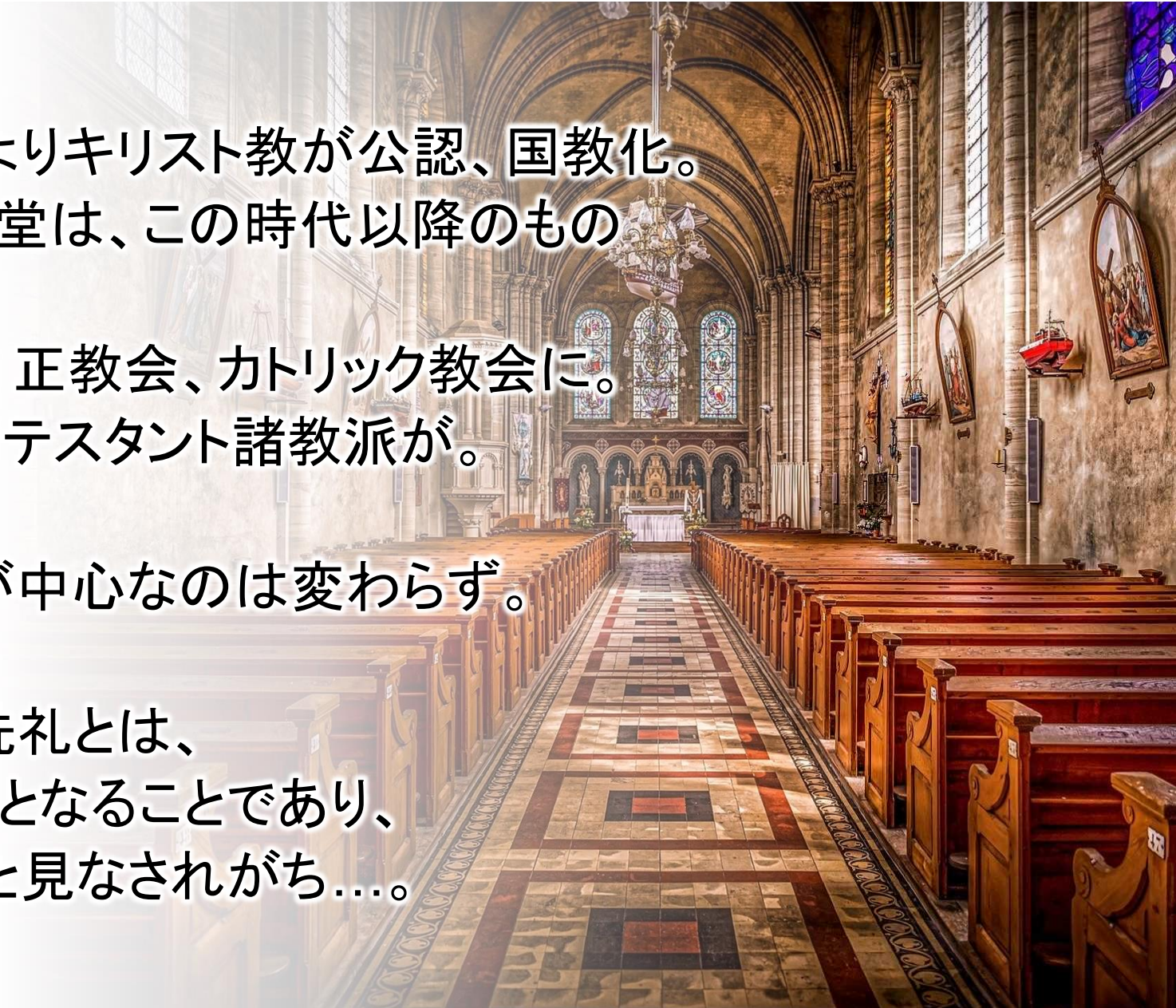
➡ 今あるような教会堂は、この時代以降のもの

■ 11世紀の東西分裂で、正教会、カトリック教会に。

➡ 16世紀には、プロテスタント諸教派が。

■ 国教会、制度的教会が中心なのは変わらず。

■ 制度的教会における洗礼とは、
制度的教会の教会員となることであり、
聖餐は、会員の確認と見なされがち....。



【儀式中心の礼拝に陥った教会の問題点】

■ 礼拝のほとんどは、定例化した儀式であり、

御言葉の解き明かしは、ほんの10～15分程度。

例) “15分以上は長すぎる” ...とある教団の牧師。

■ 儀式を秘儀として、特別な意味を持たせる教派も多い。

→ 儀式がきよめたり、力を与えるなどと聖書は教えない。

■ 過越祭も聖餐式も、主の業を記念するもの。視覚教材。

「マタ 12:7『わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない(ホセア6:6)』とはどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、咎のない者たちを不義に定めはしなかったでしょう。」



【今、世界的に広がりつつある、家の教会】

■ 初期の地域教会は、家の教会だった。

■ 迫害の厳しい地で、主流となる家の教会。
中国、イラン、イスラエルなど…。

■ 欧米などキリスト教国でも、増え広がりつつある。
→ 自発的に集い、ネットなどを活用しての聖書研究。

■ 日本でも。聖書フォーラム運動もその一つ。



【聖書フォーラムとは？】

■ともに聖書を学び、教え合う、

ホームチャーチやスモールグループのネットワーク。

(北海道から沖縄まで、そして海外にも、40以上。)

➡自宅、教会堂、公共施設など、場所は様々。

➡地域教会、バイブルスタディグループなど、形も様々。

■各聖書フォーラムは、ハーベスト聖書塾の塾生が代表。

■普遍的教会の立て上げが目標。聖書フォーラムは、地域教会。

■ハーベスト・タイム ミニストリーズ(宣教団体)とは協力関係。

キーマンズは「自分と共生」

【聖書フォーラムの理念】

■1. 共生のためのABC

① 目的(AIM)

神の栄光

② 土台(BASIS)

ユダヤ的視点による聖書解釈

ディスペンセーションリズムによる聖書解釈

聖書的イスラエル理解

③ 理念(CONCEPT) (...以下の点には例外もあり得る)

自給伝道

家の教会 ...地域教会が参加する例も(※鹿追教会)

ネットワーキング(ネットワーク)

【聖書フォーラムの理念】

2. 自立への道 — 教会の病理現象からの脱却

① 形式主義から自由へ

キリストにある自由 愛を働かせるための自由

② 権威主義から自治へ

自給伝道 自主運営

③ 伝統主義から変革へ

ユダヤ的聖書解釈 神の国の視点

④ 内向き志向から外向き志向へ

キリスト教信仰を世界観、歴史観としてとらえる。

⑤ 会員志向から流動志向へ

歴史の流れと社会の現状を読む。 自らの動機の再確認

IV. 使命から考える教会のありよう



【大宣教命令に学ぶ教会の使命】 マタイ28:19～20

「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

■主イエスから、教会への4つの命令

- ① 行きなさい ➡ 世に出て行く
- ② 弟子としなさい ➡ キリストの弟子にする
- ③ バプテスマしなさい ➡ キリストに染め上げる
- ④ 教えなさい ➡ 神の計画の全貌を教える



【大宣教命令に学ぶ教会の使命】 マタイ28:19～20

■主イエスから、普遍的教会への4つの命令

- ① 行きなさい ➡ 世に出て行く
- ② 弟子としなさい ➡ キリストの弟子として育まれていく
- ③ バプテスマしなさい ➡ キリストに染め上げる
- ④ 教えなさい ➡ 神の計画の全貌を教える

■逆のことを行っていないか？

- ① 教会堂に来なさい
- ② 弟子教育は、神学校にまかせなさい
- ③ この教会の会員になりなさい
- ④ 牧師だけに教えさせなさい



【ひとりでに育つ神の国・教会】マル4:26～29

またイエスは言われた。「神の国はこのようなものです。人が地に種を蒔くと、夜昼、寝たり起きたりしているうちに種は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。地はひとりでに実をならせ、初めに苗、次に穂、次に多くの実が穂にできます。実が熟すと、すぐに鎌を入れます。収穫の時が来たからです。」

■ 教会(畑)を育むのは、人ではなく、主イエスご自身。
種(御言葉)の内に、主の命があり、力がある。

■ 聖書を、聖書全体の文脈に従って、解き明かしていくなら、
キリストの弟子は、自ずと育まれ、教会が成長していく。



【教会の必要は主が満たされる】 マタイ6:33

「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

■ 神の国と神の義

➡ 再臨の主イエスによって実現される神の国。
千年王国、そして、新天新地。

■ 神の御計画の全貌を理解し、再び来られる主を待ち望む。

➡ この使命に遣わされるなら、
宣教のための必要は、すべて満たされていく!!



【使命に立つ地域教会とは？】

■常に何より優先すべきは、福音宣教と聖書研究

★福音宣教 ...福音を伝える。

★聖書研究 ...御言葉の解き明かし。

聖書全体を、ヘブル的視点で学ぶ。

■使命を失えば、地域教会は、たちまち死んでしまう。

★教会の組織、規約は、教会の使命を果たすためのもの

その組織、規約は、教会が使命に立つ支えとなっているか？

➡この問いをもって、具体的な組織、規約を考えていこう。